

5部

オンデマンド・
スクーリングのご案内



在宅で受講可能な「オンデマンド・スクーリング」を下記の科目について、実施いたします。※同一期に複数科目の申込みができます。

[重要]

オンデマンド・スクーリングでは、受講申込みからスクーリング試験提出まで、すべてパソコン上で操作していただきます。

また、オンデマンド・スクーリングのスクーリング試験は、一部の科目を除き、ワードファイルに解答を作成していただき、そのワードファイルをメールに添付して提出していただきます。

本学において、メールの送信、ワードの使用方法などパソコンの一般的な操作方法に関するご質問は受付けておりませんのでご了承ください。

●今回申込みを募る科目＝オンデマンド・スクーリング 4～6期

期	(注2)			科目名	申込締切 (注1)	受講開始	受講料 納入締切	スクーリング 試験締切 (注1)	S単位	受講料
	～ 20	21 ～ 23	24 ～							
4		★	■	福祉行財政と福祉計画	5/19	5/29	6/8	6/27	1	5,000円
	◆			福祉計画法						
		心理系		人格心理学(注3)						
	◆	★	■	社会福祉原論(職業指導を含む) (注3)				7/4	2	10,000円
	★	■	福祉経営論							
5	◆			福祉施設管理論	6/2	6/12	6/22	7/11	1	5,000円
		★	■	社会福祉援助技術論B						
	特別支援			障害者教育総論						
		★	■	社会福祉援助技術総論				7/18	2	10,000円
		心理系		心理学概論						
		心理系		特講・福祉心理学11 (受容と排斥の心理学)						
6		★	■	社会調査の基礎	6/16	6/26	7/6	7/25	1	5,000円
	◆			社会福祉援助技術論II						
		心理系		生涯発達心理学						
	特別支援			知的障害者の心理						
◆	★	■	障害者福祉論							

●申込上の留意点

(注1) 締切日の正午必着。締切日後1～3日間は必ずメールをチェックしてください(不備の場合連絡します)。

(注2) ◆=平成14～20年度入学者 ★=平成21～23年度入学者

■=平成24年度以降入学者向け科目

(注3) 平成25(2013)年度配本の教科書を使用している科目。必要に応じて資料配付します。

(注4) 特講科目ですが、6/2までにオンデマンド・スクーリング申込の要領により、申込みが必要です。

(注5) 受講開始の6/26までに教科書が必要な方は6/15までにスクーリング受講料を納入してください。スクーリング受講料納入から教科書発送まで約10日間必要です。

※オンデマンド・スクーリング申込・受講・単位修得方法やTFUオンデマンド使用方法の詳細は『学習の手引き』10章、概要は2013、2014版p. 11、2009-2011★版および2002-2008◆版p. 9に記載がございます。必ずご理解いただいたうえで受講申込みを行ってください。

※各科目のスクーリング試験の内容などは締切後受講開始日までに郵送(または「TFUオンデマンド」上からダウンロード)される「試験要領」で確認ください。

●「2つの講義(試験)は同時に視聴(受験)できません」と表示される場合について

『試験・スクーリング 情報ブック2014』p. 59～60(または4月新入生は『学習の手引き 2014』p. 270)に対処方法が掲載されています。

※その他、不具合等に対する対処法などは、『学習の手引き』10章 VIII TFUオンデマンド使用上の留意点をご参照ください。

スクーリング・アンケートより(2)

アンケートよりスクーリングの講義の感想を抜粋いたしました。

●児童・家庭福祉論

- ・「どんなに虐待をうけてきたり、育児放棄されたり、非行の子であっても、関わり方によって、必ず変わってくる。」という先生の言葉がとても印象的でした。
- ・講義が2日目・3日目と進むうちに、育児や、周囲への接し方のこと、これまでの人生を振り返り、自己と向き合うことが多かった。「福祉の色は何色か」という課題でグループワークをしたとき、自分の意見だけでなく、広い視野で考えることができ、良かった。

●心理学研究法Ⅱ

- ・心理学は科学ゆえ、研究ではデータを統計的に扱うことが求められること、難しい学問であるということが先立ち、受講することに戸惑いがあった。しかし、「プリントを見ながらですのでご安心ください。」という自宅に送られてきた資料によって、背中を押された。一步踏み出せば、助けてくださる先生がいて、安心して受講することができた。
- ・白井先生の講義で、錯視について考えさせられた。日常生活の中にも、思いもしなかった研究の糸口や、ヒントが隠されているのかなと感じ、おもしろかった。

●特講・社会福祉学10(スクール・ソーシャルワーク論)

- ・スクール・ソーシャルワークが学校や教師との「共働・協働」であるという点が心に強く響きました。子ども視点からだけでなく、保護者・学校視点からも問題を見つめ、よりよい道につなげることが大切だと実感しました。
- ・スクール・ソーシャルワークの必要性をもっと世の中に訴えていきたいです。学校という組織の中で福祉の仕事をする事の難しさ、児童・生徒との信頼関係の構築など、まだまだ分からないことだらけですが、少し頭の中で整理されました。これからももっと勉強していきたいです。

●公的扶助論

- ・生活保護の問題点や日々変わっていく制度について、私たちは向き合って考えていかなければならないし、勉強していかなければならないと思いました。先生の一言一言がテキストに載っていないことばかりで、とても勉強になる講義でした。
- ・貧困がより身近な問題となっていること、生活保護制度の内容が現代社会の貧困の問題に対応しきれていないことがより鮮明に理解できた。